

国際観光学科 2年 後期 専門基礎科目／専門科目

1. 職業経験(インターンシップ含む)(国内、海外)/海外留学
2. 職業経験(インターンシップ含む)実習指導
3. 職業経験(インターンシップ含む)実習事後指導

国際観光学科

科目名: 職業経験(インターンシップ含む)(国内、海外)／海外留学			担当教員 氏名: 齋藤 望、鷹西 恒、齋藤 ティム		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
8	2年次 後期	専門科目	実習	必修	
実務経験を用いてどのよ過去の海外インターン派遣経験や、オーストラリア現地企業の実態を踏まえたうえで、学生の成長に最も効果的な授業を行っているか: 果的な授業を行う。					
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード
様々な産業界(特に観光産業界)の各分野における実践活動を通じて、顧客とは何か、仕事とは何かについて考え、また自らの強み、弱みに気づき、人間的な成長を期するために実施する。職業経験(インターンシップ含む)では、国内と海外を選択できる。海外留学も選択可能。海外は、観光先進国オーストラリアでの実習または語学強化を行う。実習先を通して様々な業界の実態、将来に向けた方向性についても学ぶ。また事前指導において設定した個人目標に対する自己評価、指導社員評価、教員評価を日常的に実施する。実習終了時には、現地指導社員、指導教員による総括評価を受ける。実習の目標は、①人間として成長する、②働くことを理解する、③語学力を高める、である。					人間力 社会人力 語学力
1 学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号)		1、2、3、4、5、6、7、8、9	
B 専門的技術		社会貢献・自己実現にインターン実習で得た技術が活用できる。			
D 問題解決力		インターン実習での問題を同定し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決できる。			
H コミュニケーション力		言語や身体を用いて自己・他者に理解を深めコミュニケーションができる。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要件に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト:	%	レポート: 20 %	発表: 30 %	実技試験: %	その他: 50 %
特記事項: 評価は、個人の自己評価およびインターン先企業の指導社員による評価とする。					
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: テストはない。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 指導社員との定期連絡やレポートにより課題の解決を図る。					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な時間(分)	
①イントロダクション			現地企業社員の指導の振り返り	授業全体で240時間	
②職業経験(インターンシップ含む)実習					
③職業経験(インターンシップ含む)実習					
④職業経験(インターンシップ含む)実習					
⑤職業経験(インターンシップ含む)実習					
⑥職業経験(インターンシップ含む)実習					
⑦職業経験(インターンシップ含む)実習					
⑧職業経験(インターンシップ含む)実習					
⑨職業経験(インターンシップ含む)実習					
⑩職業経験(インターンシップ含む)実習					
⑪職業経験(インターンシップ含む)実習					
⑫職業経験(インターンシップ含む)実習					
⑬職業経験(インターンシップ含む)実習					
⑭職業経験(インターンシップ含む)実習					
⑮まとめ					
使用テキスト: なし				その他参考文献など:	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):					

国際観光学科

科目名: 職業経験(インターンシップ含む)実習指導				担当教員 氏名: 齋藤 望、鷹西 恒、齋藤 ティム		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次	後期	専門科目	演習	必修	
実務経験を用いてどのよ 過去の海外インターン派遣経験や、オーストラリア現地企業の実態を踏まえたうえで、学生の成長に最も効 うな授業を行っているか: 果的な授業を行う。						
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
様々な産業界(特に観光産業界)で職業経験(インターンシップ含む)実習を行っている 学生に対して指導を行う。実習開始前に設定した個人目標に対するフィードバックを行 いながら、指導をする。また、実習の目標である①人間として成長する、②働くことを理 解する、③語学力を高める、が実現できるようにサポートする。						人間力 社会人力 語学力
1						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1、2、3、4、5、6、7、8、9	
B 専門的技術			社会貢献・自己実現にインターン実習で得た技術が活用できる。			
D 問題解決力			インターン実習での問題を同定し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を 確実に解決できる。			
H コミュニケーション力			言語や身体を用いて自己・他者に理解を深めコミュニケーションができる。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト:	%	レポート:	%	発表:	%	実技試験: %
その他: 100 %						
特記事項: 評価は、個人の自己評価およびインターン先企業の指導社員による評価とする。						
アクティブラーニング要素:						
課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な 時間(分)	
①職業経験(インターンシップ含む)実習指導						
②職業経験(インターンシップ含む)実習指導						
③職業経験(インターンシップ含む)実習指導						
④職業経験(インターンシップ含む)実習指導						
⑤職業経験(インターンシップ含む)実習指導						
⑥職業経験(インターンシップ含む)実習指導						
⑦職業経験(インターンシップ含む)実習指導						
⑧職業経験(インターンシップ含む)実習指導						
⑨職業経験(インターンシップ含む)実習指導						
⑩職業経験(インターンシップ含む)実習指導						
⑪職業経験(インターンシップ含む)実習指導						
⑫職業経験(インターンシップ含む)実習指導						
⑬職業経験(インターンシップ含む)実習指導						
⑭職業経験(インターンシップ含む)実習指導						
⑮まとめ						
使用テキスト: なし				その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):						

国際観光学科

科目名: 職業経験(インターンシップ含む)実習事後指導			担当教員 氏名: 齋藤望、鷹西恒、齋藤ティム						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
1	2年次	後期	専門科目	演習	必修				
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:									
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード			
インターンシップ終了後、集中講義で振り返りを行う。具体的には、事前に設定した自らの目標に対する、成果と反省をまとめ、グループディスカッション、指導教員、インターンシップ先の指導者等の指導を受けながら自らの卒業後の新たな目標設定を行う。						強味、弱みの把握、進路、将来設計、新たな目標設定			
授業における学修の到達目標									
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			1、2、3、4、5、8						
C 論理的思考力			情報、知識、経験を複眼的、論理的に分析し、表現できる。						
D 問題解決力			今後の生き方について、問題を同定し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決できる。						
H コミュニケーション力			言語や身体を用いて自己・他者に理解を深めコミュニケーションができる。						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	30 %	発表:	50 %	実技試験:	%	その他:	20 %
特記事項: 2月3日~8日までの集中講義									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 (ディスカッション、ディベート) (グループワーク) (プレゼンテーション) 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: インターン実習で自ら設定した目標に対する成果と反省のレポート提出、インターン実習の振り返り発表など									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 適宜対応する									
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)					
				学習内容	学習に必要な時間(分)				
①【齋藤】PROGテスト実施				PROGテスト実施準備	60分				
②【齋藤】PROGテスト実施				PROGテスト実施準備	60分				
③【齋藤・ティム】TOEIC IP テスト(L&R)				TOEIC文法問題を復習する	60分				
④【齋藤・ティム】TOEIC IP テスト(L&R)				TOEIC文法問題を復習する	60分				
⑤【齋藤・ティム】TOEIC IPテスト(Speaking)				TOEICのSpeaking問題を復習する	60分				
⑥【全員】インターン実習ふり返り				各自が体験したインターン実習についてまとめる	60分				
⑦【全員】インターン実習ふり返り				各自が体験したインターン実習についてまとめる	60分				
⑧【齋藤】PROGテスト結果の解説				PROGテストの結果を読み込む	60分				
⑨【齋藤】PROGテストと今後の活用法				今後の能力開発と目標設定	60分				
⑩【鷹西】「2年間の成長」				2年間の成長について振り返り	60分				
⑪【鷹西】これからの人生の目標をみつけよう				将来やりたいこと	60分				
⑫【ティム】総括				2年間の英語の成長を振り返る	60分				
⑬【鷹西】総括				2年間の学習を振り返る	60分				
⑭【齋藤】総括				将来の人生設計を考える	60分				
⑮【齋藤】総括				将来の人生設計を考える	60分				
使用テキスト: なし				その他参考文献など:					
受講上の留意点									